「「世界の国々」を担当して」『総合科目 in 三重大学：現代に生きる知恵を求めて』
三重大学一般教育 1994年8月 17-22頁

「世界の国々」を担当して

稲賀繁美

1-1) 最終生存率

受講登録者133名に対してリポート４通プラス筆記試験を課したところ、合格者はわずか33名、不可４名（リポート合格２通以下、筆記試験不可ないし欠席）あとはことごとく中途脱落という結果でした。黙って聞いているふりをして、期末試験さえ受けて通るならそのほうが楽でよい、という受け身の姿勢が見受けられます。最終生存率は20パーセントということで、「サーヴァイヴァル・ゲーム」になりました。

1-2) 受講者数の減少

ちなみに昨年は聴講登録者260名で半数が合格でした。聴講登録者の減少の原因は、(1) 同一時間帯にできるだけ均等に出講するように、という方針の結果、月曜日１限にも、1993年度から多くの自由選択の科目が入ったこと、(2) 語学の必修クラス指定が同一時間帯にいくつか入ったこと、(3)そしてこの授業は「楽勝」イメージのある総合科目のなかで「異常にきびしく」、単位取得困難といううわさが去年の上級生から今年の一年生に流れたためかと考えます。総合科目のなかでは「一番不人気なのも当然」という学生の評もありました。

本当に意欲のある学生しか残らなかったのはそれで良いし、歩留まり25％内外こそむしろ本来あるべき健全な数値ともいえます。逆にせっかく遠方から講師をお招きしながら、あまりに学生が少なかったのだから失敗だとも解釈できましょう。また少数になったため私語が少なかった一方で、結果として教室が広すぎて、気楽に質問をする雰囲気を作りにくくなった、という反省もあります。必修の授業をさぼってまで聴きにきた熱心な幽霊学生もいた反面、聞きたい話は多かったが課題が過重なので来ることができなかった、という（その気の弱さに同情したくなるような当惑したくなるような）文句も出ました。前者からは、なぜ必修の時間と重なっているのか、と問い詰められましたが、これは現在のカリキュラムではやり繰りがつきません。また後者からは、リポートを出さなくても聞けるようにして欲しいという声もありましたが、聞きたいものを聞くのは君達の勝手で、リポートがきついから聞けないという理屈こそ弱者の居直り、屁理屈だ、と答えておきました。私としては、単位など二の次で聞きたい話はモグリでもなんでもよいから聞きにくる、というのが大学の自由選択の授業のあるべき姿と考えています。しかし高校まで管理浸けできたうえに、情報氾濫のなかでみずから情報を収集する訓練もなければ、その意義も体得できずに毎日を消極的に送っている現代の学生諸君に、聞きたい授業を自分で選べといっても無理、無意味な様子です。単位に必要だったらつまらない授業も我慢するが、単位と関係なけれ

ば、ハナからまったく興味をしめそうとしない、そうした心理を改造しようとは思うのですが、ままなりません。

1-3) リポートについて：情報収集の努力欠如とその環境

授業の復唱や内容ゼロの感想文のかわりに、自らの調査に立脚してなんらかの仮説を打ち出し、提言を盛るというリポートを課しました。そうした訓練が高校までまったくなされていないことにここ数年危惧を抱けばこその課題ですが。不満轟々でした。授業で教えてくれないのにズルイといった反応から、そんな無駄な努力を学生に強いる権利はない。そんな無駄をさせるぐらいなら回答をちゃんと授業で示せ、責任放棄だ、といった反発までありましたが、大多数の学生はこの「無茶苦茶」で「異常」な課題を前にして逃亡してしまいました。

リポートのために図書館でせっせと資料集めをしている少数の学生を、大多数の学生はなんであんなつまらんことしとるんやろ、アホちがうか、と冷ややかに見ていた、という告白もありました。大学生を相手に勉強する気、やる気を出させるお膳立てまで大学の教師がしなければならないのでは、自主性の名を借りた管理強化という逆説にしかなりませんが、「リポートを書く訓練になるからと、積極的にこの授業を取った学生は私の周辺にはほかにひとりもいませんでした」という報告にも接しました。

リポートの書き方については、ずいぶん口うるさく指導をし、とくに前期に「比較文化」を聴講した学生には200名以上の聴講者を相手に都合ひとり３度はリポートを個別に添削してみたのですが、その経験が生かされたリポートは残念ながらほとんどお目にかかりませんでした。事実を調べもせず、新聞で確かめることすらせずに「思います」、「気がします」の濫発で、情報量ゼロの作文。第三者にはそもそも授業で何の話があったのかすら想像不可能な授業感想文。妙にお説教臭く、高飛車で他人行儀で、書いている自分の社会的責任など最初から括弧にくくった「すべきである」調のクソ一般論。「引用文献」として上げてある本を読んだとは到底考えられない、まったく引用がない「課題読書感想文」。めずらしく具体的なデーターがあるかと思えば、だれかの本の引き写で自分の意見はゼロの「リポート」（もちろん出典は記載なし）。ないしは殴り書きの心情吐露で、授業とはまったく無関係な作文ないしは私的日記断章（これは下手につぶしたりけなしたりすると、登校拒否や退学はては自殺につながるので取り扱い要注意です）。

そうした「リポート以前」の代物にもかかわらず、講師の方々には、親切な講評をいただきました。しかしせっかく講評されたリポートを、命令しなければ受け取りにすらこない学生が大多数。昨年のリポートの３／４は返却箱に放置されていましたので、今年からはやむなく、「受けとらない学生の単位は抹消する」、という脅迫に訴えていますが、教務上これはまったくの空文ですので、効果のほどは疑問です。すくなくとも、自分で保存しておくに値するものでないな

ら、提出などするな、とは口をすっぱくして申しているのですが。

授業を出発点にして自分なりの疑問を立て、最低いくつかのリサーチ（ＮＧＯ機関に資料請求をする程度のこと）を踏まえて具体的データを自分で集め、それを基礎にして、自分の疑問に答え、自分としてその話題に関する具体的な提言を盛れ、という要求をリポートの最低限度として何度も説明したものの、これをクリアーしたものは20パーセントの生存者のなかにもほとんど皆無でした。あつめたデータも著者によって意見が違い、対立や齟齬がある。また引用した著者の見解と自分の意見の差異を明記して、別のデータにもとづいて著者の見解に反論を加える、などといった要求は、するだけ無駄と最初から諦めました。教条的な一冊の本に容易に洗脳され、その本の主張をあたかも自分の主張のように綴ってしまう学生はまだマシなほう。ほとんどの学生は本一冊はおろか、授業で配られた資料、パンフレットすら利用せずに、自分勝手な作文を殴り書きして、それで単位が出ないと文句を言う始末。それではだめだ、と指導すると、余計なお世話と逃げてしまいます。

1-4) 筆記試験の好成績

ところが、出席点呼の代わりに出題した期末筆記試験のほうは、出席していないとまず回答不可能な事実を穴埋めにするかなりのイジワル問題であったにもかかわらず、試験出席者の半数は８割以上のでき。とはいえついでに申し添えるべきは、せっかく出席してやってるのに、出席点呼を取らないのは不公平という意見、筆記試験に、「こんな書けない試験はやめてください」という声もあったことでしょうか。前者に対しては義理で出席する必要はない。出席したのに筆記試験で点が取れないのは、君がバカ（といっては関西では大変で「あほ」といわねばなりません）なだけだ、出席してなくて筆記試験ができたのなら、それは必要な知識がちゃんとあったのだから、別に出席しなくてよかったわけだ、だから不公平ではない、と答えることにしています。また後者に対しては、たとえば現地にいけば「こんにちわ」を現地の言葉でいえるかどうかが、事業の成否、はては生存の有無を決定する。また手紙の名前、先方の肩書など、自分にとってはどうでもよいように見えても、もし書き問違えたら、それだけで交渉は最初から成立すらしなくなる。この試験にひとつでも誤答したら社会的生命を失いかねない現実の厳しさと、君達がクイズみたいな意識で気軽に受ける筆記試験との落差をここに見てもらうのが目的だ。この試験ができるかどうかは二の次だ、と答えています。とはいえ、どうせできなくても殺されはせず、むしろ卒業させてやらないと親や社会から制裁を食らいかねない現在の日本の大学の授業や試験で、こんな生死にかかわるお説教をしても、かえって学生諸君の冷笑に迎えられるだけかもしれませんが。以上、全般的な概論的反省でした。以下、個々のアンケートへのコメントを掲げます。

2）アンケート

アンケート回答数は都合41件、また筆記試験用紙の余白に書き込まれた、関連するコメントを載せます。

2-1) 時間割について

＊月曜日の１限はやめてくれ（多数）［２限以降では出張に関する規定で、遠隔地の先生の前夜の一泊分の宿泊費が出ず、現実的にお呼びできなくなる。自由選択の授業は1限からはずすという案もあるが、目下、クラス必修の非常勤依存率などの問題もあって、全学的な調整がつかない。また次のような反対意見もある］

＊１限でよかった。授業のあと先生に質問して、いろいろな話が聞けたから

2-2) 内容について

＊総合科目は人文・社会に偏っていて、自然系が少ない［ごもっとも。ですが総合科目を担当しているのは教育学部の一部と人文学部と先生方です。それ以外の自然系の学部の先生がたには特にお願いして講師をしていただいていますが、責任者をおねがいすることは制度上できません。将来は全学の先生方が自由に総合科目に加われる体制をつくりたいと思っています］

＊内容が薄い。もっとつっこんで欲しい。広く浅くでなく狭く深くして欲しい。表面的で時間的な圧迫があった。時間が短くで概論になってしまう傾向あり。［せまく深くは総合科目とは別の授業で補う必要があるでしょう。ただ総合科目が入門講義の寄せ集めとは別の意図をもっていること、研究者の現場の声、現場の苦労を伝えるという目的をもっていることは授業概要に説明しておきました。総合科目はそれだけで完結できるものではありません。むしろ総合科目は出発点であり最終目的地ですが中途の過程は授業の外でのみなさんのリサーチということになるはずです。反論としては：］

＊内容が大変に濃く、聴講者が少なくてもったいなかった。内容が一部に偏っていた。［最初から、14回の授業で全世界のことがわかるような完結した授業ではない、と言ってある。むしろ未知の世界への出発点として刺激になる話題を学生に拾ってもらいたかった。システムとして閉じた知識を大学で要求するのは、高校までの教科書思考がぬけていない証拠。この発想を変えて欲しい］

＊講義の話はよかった（３名）／＊くだらない話が多かった。期待を裏切られた（１名）／＊もっと興味のもてる内容にしてほしい（期待といい興味といい内容が不明ですが）

＊中東やバルカン情勢、南アフリカの話がなかった。［これは政治史の先生によるリレー式講義のほうが能率がよいでしょう。「世界の国々」が意図するのは国際政治史のトピック特集ではありません。講義概要に記したとおり。だが、ナミビアで第一線で活躍したユニセフ勤めの日本人のお話を伺っておきながら、南アフリカの話がなかった、とは君の感覚が麻痺してるよ］

＊第一線現場の声に接することができ充実していた。いろいろな立場の人からい

ろいろな話が聞けた。普段ニュースでは知られず、また書物では得られない生の言葉、生きた情報、実際に経験した人でないとわからない苦労がわかった。鮮烈な情報があって、視野がちょっぴり広がった。／＊藤木先生のお話には感動した［藤木先生をお呼びしたのは今の２年生です。良い講師をこれからも紹介してください］

2-3) 運営について

＊講義のレジュメが一回目の授業のときに欲しい。［昨年は講師にお願いしたのですが、14名のご多忙な先生方から原稿を頂戴するのはうまくゆかず、本年は毎回の授業前に掲示できるものは掲示するにとどまりました。計画表、日程表はきちんと学生に配布し、一回目に口頭では詳しく説明したのですがほとんどノートをとる学生はいませんでした］

＊リポートが多すぎた。リポート制作、文章の書き方のアドヴァイスが欲しい。［一回目と最終回にはこれも話題にして懇切に説明しました。またそのためのクラスも別に準備中です。比較文化の授業では半年かけてその訓練をしましたが、それを受けた学生しか「世界の国々」を受講できない、とするのは規程上無理でした］

＊リポートの内容を考えて欲しい。リポートの課題の出し方が悪い、量が多すぎる。ほかの授業に比べて異常だ。だから聴講者が減って不人気になった。

＊参考文献を明確にして欲しい。［きちんと示してくださった講師もありましたが、必要な文献が手に入らない、という飢餓感をもって欲しい。いかに必要な情報が皆さんからそれと知られぬまま遮断されているか。そのことに気付いてもらうために、教育的見地から敢えて選ばれた主題も有りました］

［資料の講求の方法などいちいち指示したはずです。入手には最低2週間はかかります。三重大学がいかに情報から隔絶されているかに気付き、情報が決してひとりでに降って来るものではないことを学んで欲しいと思います。情報収集ノウハウも尋ねにきた学生には指導しました。すべてお膳立てされないと何もしようとしない姿勢そのものを問い直してください］

［高校までの読書感想文や調査リポートの殻を破ってほしかったが、それに必要な指導の時間がなかったことは反省しています。普段の授業でリポートといわれているものが、実はまったく無意味な儀式になっていることに気付いて欲しかったのですが、それで単位がとれるのに、どうしてこんなシンドイことをセナアカンのや。というのが皆さんの正直な反応でしょうか。ちょっぴり残念です］

［総合科目は楽勝ヤというウワサに開講責任者は対抗せねばならない、という苦しい事情もすこしは理解してください。また教師側に熱意があるほど学生側が白けてしまうのでは、教育は機能しませんが、これは日本の社会全体の問題ですね。次のような意見もありますよ：］

＊いろいろな社会問題への探求心をそそられた。

＊リポート提出を強いられたので縛られている気がして、おもしろそうな講義だとは思ったが出られなかった。リポートがあるからやめた、という学友が多かった。
＊自発的に出席できる雰囲気が欲しかった。
［リポート４通ということは月に1つで十分。それでも多いというのは、それこそよっぽど怠けてふだん学期中まったく勉強していない証拠。先生の言ったことを暗記する授業ではない。聞きたい話を3回に一度聞きに来れば単位は取れる、と最初に言ってある。自分の可能性を自分で潰してはもったいないよ。またリポートを強要でもして書いてもらわないと、学生の声は永遠に講師には伝わらない。受け身で沈黙の「壁」に徹する姿勢はもう卒業してください。コメントありがとう。単位あげられなくてごめんなさい。つぎのような反対の意見もあります］
＊リポートの数が決まっているのででなくてよい授業があるのが問題だ。ちゃんと出席している学生もいるのだから、ちゃんと出席をとって欲しい。
＊同じ先生のところで、ひとつのテーマについてもっと深く研究したい［学内外の先生を問わず、直接相談にいってごらん。未来の指導教授に会えるよいチャンス。また小人数の自主的なゼミナールを平行して開設し、学生の小人数グループによるリサーチをバック・アップする計画を目下すすめています］
＊個々の講師に２～３回は続けて話して欲しい［学外非常勤の場合には、東海圏におられて時間の都合のつく講師でないかぎり、現実的無理です。東京や東北九州から２週間つづけて２度同じ講師をお呼びできるでしょうか。開講責任者の世話役としての苦労は口にすべきではないのでしょうが、少しはお膳立てをする側の苦労も察してやってください。また学内の場合、人文・教育両学部の先生には無料奉仕で出講をお願いしている現状です。つまり手当なしで善意でお話しをいただいているのてす。過度な要求はできません。現在、学内の先生によるリレー式講義（ひとり３回程度）の導入を考えているところですが、結局負担が今以上に増える、また前例がない、出勤簿の管理上問題がある、などでまだ組織的には実現できません］
＊個々のテーマについて話し合う討論会の機会が欲しい。［授業後講師を囲んで自然発生的な討論会もできました。それが健全なのではないでしょうか。これまでも先生がお膳立てしなければいけないのでは、あまりにお仕着せです。討論やリサーチ・グループは、総合科目の授業の枠外で、総合科目と助け合う形で設定しようと現在模索中です。昨年は学生諸君が自主的にグループを作ってうまくいったケースがあります（自主的だからこそうまくいった）。ただ学外の講師のかたがたの手当の問題、勤務時間以外を無料で拘束することになる（とりわけ公務出張でお越しいただいた講師の場合）。お世話をする開講責任者の時間の都合（次ぎの授業に行かなくてはいけない）などあって、ここまで組織的にお世話する余裕が現在のところありません。とはいえ、建設的意見ありがとう］

総合科目 in 三重大学
－現代に生きる知恵を求めて－

発行年：　1994年 8月発行
発行所：　三重大学一般教育
〒514 津市上浜町1515
TEL: (0592) 32-1211
FAX: (0592) 31-9353